

新年会 (1月20日) で寄席を楽しみませんか



三遊亭鬼丸さんの落語

上田染谷丘高校出身の真打ち

関東同窓会は1月20日、千代田区一ツ橋の日本教育会館で恒例の新年会を開催します。今年のアトラクションは、今売り出し中の三遊亭鬼丸さんの落語です。多数の皆さまの参加をお待ちしています。

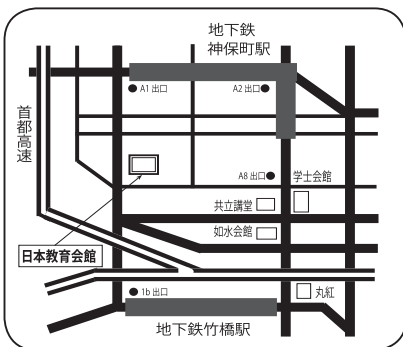
鬼丸さんは上田染谷丘高校出身です。師匠は三遊亭圓歌。大ヒットした「山のあなあなあな...」(授業中)の元歌奴と言った方がピンと来るかもしれません。97年に入門したときの芸名は「歌ご」で、2000

年に二つ目に昇進し「きん歌」と改名。そして2010年秋の真打ち昇進で、この恐ろしい名前(笑)となりました。日本テレビの「笑点」で他の新真打ち4人とともに襲名披露をしたのをご覧になった方も多いでしょう。11月20日には上田文会館で「三遊亭鬼丸真打昇進襲名披露公演」が行われました。約500席の会場は満員。古典落語の「猿後家」を演じ、

大好評を博しました。今回は多くの方の参加で、にぎやかな高座となるよう家族ら同伴者の参加も歓迎します。予約申し込みは必要です。また、鬼丸さんの母校、上田染谷丘高校同窓会東京支部にも同校卒業生の皆さんの協賛参加を呼び掛けます。

次期役員選考委員会が発足

来年度の総会をもつての現役員の任期満了、次期役員選出に備えて、次期役員選考委員会(委員長・鷹野芳機副会長)が設置されました。関東同窓会の今後のいっそうの発展を期するため、その任務を担うにふさわしい会長以下役員候補者の推薦を、会員の皆さまより受け付けますので、ご応募をお待ちしています。推薦にあたっては、応募役員名、候補者氏名、卒業期のほか、簡単に推薦理由を付してください。受付期限は2011年1月末日とします。この件に関する問い合わせ、応募先は委員会の事務局を務める栗山正雄(当会幹事長)までお願いします。



【日時】 1月20日(木)
落語 午後6時半から
懇親会 午後7時半から
【場所】 千代田区一ツ橋 2-6-2
日本教育会館9階 喜山倶楽部
【会費】 5,000円
地下鉄神保町駅下車徒歩3-5分
(新宿線、半蔵門線、三田線)
地下鉄竹橋駅下車徒歩5分(東西線)

宮澤氏の講演、窪田氏の演奏

総会・懇親会に225人参加

関東同窓会の第49回総会・懇親会が7月3日、千代田区一ツ橋の如水会館で開かれた。母校創立110周年を記念して、今回は特別に会費を例年より2000円安くした効果もあってか、昨年より約40人多い225人が参加。

総会に先立ち、独立行政法人・海洋研究開発機構チームリーダー

の宮澤康正氏(84期)が「私たちの生活と海洋の思わぬつながり」について講演した。

宮澤氏は最近の地球温暖化について、現代は「氷河期」にありながらも、その中で温暖化している、その特異性を指摘。20世紀から気温が上昇しており、たった100年で過去1万2000年の気候変動を超える急激な変化が生じていると警告した。

懇親会では、打楽器奏者の窪田健志さん(99期)が率いる「くぼった打楽器四重奏団」による演奏が披露された。マリンバ、太鼓、シロ



フォン、ピアノなど打楽器だけの演奏は珍しく、参加者はその美しい音色に聞き入っていた。最後の締めは、いつもの校歌斉

唱。今の不況を吹き飛ばすような元気のいい歌声がホールに響きわたった。

母校創立110周年記念大会 矢島渚男氏(51期)が講演



講演する矢島渚男氏

上田高校創立110周年記念大会が9月18日、上田東急インで開かれた。参加者は400人を超える大盛況で、関東からも多数の同窓生が参加し、記念の日を祝った。

大会に先立って本部同窓会総会が開催され、日置勇二理事長のあいさつに続き、母校室内楽班がNHKの大河ドラマ「風林火山」のテーマ曲など5曲を演奏した。

記念大会では、関哲夫校長が母校の現状について報告。来賓を代表して関東同窓会の白井透会長が祝辞を述べた。

続いて行われた記念講演では、読売新聞の俳句選者でもある俳人の矢島渚男氏(本名、51期)が「母校の思い出と俳句の話」と題して講演した。同氏は高校時代に生徒会長を務めたが、学校批判などが原因で3年生の時に東京の高校に転校。大学卒業後、縁あって17年間、上田高校で社会の教師を務めた経験がある。

軽妙な語り口で、母校教諭時代に持ち上がった上田高校の移転話に1人反対した話など、懐かしい思い出を披露した。

頑張れ、日本!

「これを為さねば国は斃れるの気概を以て当たらねば外交など出来ぬ」は西郷南洲、「国がいくら富を誇ろうと生命力無くばその国は必ず頽れる」は肥田春充の言。今、將にこの言を腹にぶち込まなくてはならない時に思えます。外交における国家大方針を檢察が決めたと信じ難き事を平然と宣ふ国のトップ、国事定む神聖なる場所でモデルを決め込み、「科学技術が何で世界を目指さなくてはならないの」などと小学生でも開いた口が塞がらぬ言を發する政治家。上乱るれば下また乱る。下乱るれば上これに乗ず。「数人のドンキホーテ、数十人の義ある人現るれば国は変わる」と国の将来を憂う真人の言う。

松尾台上城跡、灯火の翳に英雄の面影を偲んだ我が上田高校OBの方々のご健闘を切に祈ります。頑張れ、日本!

藤堂インターナショナル株式会社・麗宝保健品製造株式会社・株式会社ビセイストラスト
上海天新麗保健品有限公司・上海勇華堂保健品有限公司 小山 雅堂(65期) 小宮山 豊(65期)



林長人氏 (65期) が優勝 秋のコンペ



ゴルフ同好会幹事
上原昇(65期)

優勝した林長人氏の一言。「このコンペは3回目、これまでスコアが悪かったのでハンディをたくさんもらいました。65期の中では若手なので、これからは先輩たちに負けないよう頑張りたい」

今回は11年4月、千葉カントリークラブ川間コースを予定。

秋の同窓会コンペは、昨年にと続き今年も終日冷たい雨のなかで、タフな試合となった。10月28日、場所は取手国際ゴルフ倶楽部(茨城県つくばみらい市)、出場者は31人と、天候のせいもあり少なめだった。

熱戦の結果、優勝の栄冠は林長人さん(65期)が3回目の挑戦で見事獲得。スコアはネット67と5アンダーの好成績だった。

準優勝は小山平六さん(62期)、3位は田澤洋さん(61期)、ブービーは鷹野芳機さん(60期)が、ベスグロは前記小山さん。

今回、同窓会から2人の方に記念のメダルが贈られた。1人は、参加者中最長老の相田俊一さん(48期)で「功労賞」を贈呈。毎回遠方から参加してコンペを物心ともにサポートしてくれる、ありがた先輩だ。もう一人は第1回から一度も休まず15回参加している宮島光男さん(55期)。当コンペのスタート時の幹事も務めた宮島さんには「皆勤賞」が贈られた。

「セガレ」からの手紙

実家の農業を支援しませんか

みなさんはじめまして、95期卒業の児玉光史と申します。95期のみなさん、ご無沙汰しております。みなさんはお変わりありませんか？

私の実家は武石村の小さなアスパラ農家です。昔は農業の手伝いも嫌で嫌でしようがなかったのですが、東京で生活をしていると、実家が農家のありがたみを感じるようになりました。定期的に野菜を段ボールで送ってくれますし、何よりも、将来、食べ物には困らないわけですから、そして、そんな先祖代々の農地を守っていきたくと思うようになりました。祖父が亡くなり、両親も年を重ね農作業が大変になってきています。

す。ちなみに、農家の娘を、セガレと呼んでいます。

私を含めた3人でスタートしたセガレは、3年間で100人を超える大所帯となりました。東京には田舎出身者が多く、みんな継ぐか継がないか、本当に悩んでいます。具体的な活動は、週末に自由が丘などで野菜を販売する他は、東京で参加者を募って武石村に田植えや稲刈りのバスツアーをやったり、東御市の永井農場さんに見学に行ったりと、東京にいる農家のセガレだからこそできることがあると気づきました。

そんな状況にもかかわらず、私といえは、実家を離れてのんきに暮らしています。実家に戻らなければと思う反面、東京でやりたいこともありますし、実家に戻ったとしても、農業以外の仕事も新しく始める必要がありますから、さて、どうしたものかと、悩んでおります。

また、私の同期(95期)で農業をやっている2人と会うことができました。1人は、7組の白倉君。彼は北御牧村で八重原米を作っています。もう1人は、2組の前島さん。彼女は塩田の出身ですが、今年、筑波の農業者大学校を卒業し、現在は茨城の産直市場で修業中です。

そんな折、ひよんなことから、東京で「セガレ」を始めました。セガレは、東京で働く農家の息子(セガレ)や娘(セガール)が、週末に実家の野菜を売るなど「親孝行」や「地元への恩返し」をしているチームで

今は、地元を離れて暮らしていますが、だからこそ実家や地元のためにできることもあります。どこにいても地元に戻ろうが、ちよつとたいと思います。

ご連絡お待ちしております。

メール: mitsush@segare.jp

児玉光史(95期)

思いやりを形に。

東京・神奈川を中心とした不動産賃貸管理



Powers Group

管理戸数 6,500戸
入居稼働率 97%の実績

株式会社パワーズアンリミテッド

〒162-0066 東京都新宿区市谷台町 8-8
TEL 03-6821-8588 FAX 03-3356-2288
<http://www.powersunlimited.co.jp>

三井住友海上火災保険株式会社 代理店
三井住友海上きらめき生命保険株式会社

株式会社 ハート・ワン保険サービス

取締役 田中一穂(60期)

〒380-0888 長野県長野市上ヶ屋 2471-3376

TEL & FAX : 050-8686-0881

E-mail : f35540288kt@ngn.janis.or.jp

台湾の苗栗高校を訪問

62期が親睦旅行、大歓迎受ける

台北の桃園国際空港からバスで高速道路を南に約2時間。目指す学校は小高い山並みに囲まれた盆地の中にあった。国立苗栗高級中学校（高校）。上田高校9期（1910年卒）の金井勝先生が初代校長（1941〜46）を務めたゆかりの深い学校だ。5月には同校の先生と生徒28人が上田高校を訪問し、交流会を開いている（8ページの記事参照）。

今回の訪問は、ひよんなことから実現した。62期はこのところ毎年、旅行業を営む秋田勇君の企画で親睦旅行を行い、昨年は中国の大連を訪問。今年は台湾に行くことになり、「それならぜひ苗栗高級中学も訪問しよう」となった。参加者は夫人3人を含む15人。学校に着くと、校長先生はじめ職員、生徒が校門前で出迎え、われわれ一行を大歓迎してくれた。会議室で開かれた交流会では、岩井重一君が代表してあいさつ。上田高校の関校長から預かった親書を手渡すとともに、記念品の「上田



獅子」の木彫りを贈呈した。一行はこの後、講堂で生徒たちによる吹奏楽演奏とマジック・ショーを楽しんだ。

2日目は、台中から台湾新幹線とバスで南部の都市高雄へ。台北と高雄を1時間20分で結ぶこの新幹線は日本の技術支援で3年前に開通した。日本の車両とほぼ同じで、乗り心地もよい。市中心部から離れた場所に新設された駅は、まるで空港のターミナルのような感じ。だが、添乗員の説明に



よると、乗車率はあまり良くなかった。翌日は再び新幹線で台北へ戻り、市内観光。中国歴代王朝の装飾品など65万点以上を収蔵する故宮博物館、故蒋介石總統の業績を称える「中正記念堂」などを見学した。

名所観光のほか、台湾料理、中国料理をたっぷり味わった3泊4日の旅。帰りの飛行機に搭乗するころは、かなり疲れの色も見え始めたが、みんな満足そうな顔だった。 真山隆夫(62期)

7月の総会は筆頭当番期です

64期の皆さん 集合しましょう

第6回64期会（武士の会） 昼間、丸子グランビイリオゴルフ倶楽部で行われたゴルフコンペには20人が参加した。

当番の4組の長沢知熊君らが司会進行を務め、井出先生の乾杯で始まり、ゴルフコンペの成績発表、各クラスごと全員が近況報告をした。

最後は7組の相馬仁君の指揮で校歌などを斉唱、来年度幹事の3組の北村修一君から決意表明があった。

クラス対抗ゴルフコンペは6組8組合同チームが優勝、2組Aが準優勝。個人優勝、ベスグロ賞は宮之上洋一君、準優勝は宮原俊雄君だった。

今年64期中山道の旅と日程が重なり、世話人の清水計枝さんほか6人が参加、16日に木曽路の奈良井宿で1泊、宮ノ越宿まで歩いた。

今年7月の関東同窓会総会は64期が筆頭当番期で、実行委員長を出します。大勢の皆さんが参加して盛り上げましょう。

石井則男(64期)

個人投資家向け会社説明会

申込受付中!

証券アナリスト基礎講座

個人投資家には絶好のチャンス!

企業の経営陣から直接説明を聞くことができる

—開催日程等の詳細は協会ホームページで—

～参加料無料～

お問い合わせ:i-kaisai@saa.or.jp

投資に興味がある方に最適な

学習しやすい初級レベルの通信講座!

—コンパクトなテキスト(2分冊)による自学自習を補完する

演習問題も充実—

受講料:15,000円

お問い合わせ:kiso@saa.or.jp



社団法人 日本証券アナリスト協会 <http://www.saa.or.jp>
(59期 萩原清人)



理科系班OB会に22人参加

NHK気象キャスター 関嶋梢さんも

昨年、NHKの気象キャスターである関嶋梢さんが母校天文班のOBであることが判明した。当OB会では「来年こそ彼女に参加してもらえるように幹事長は交渉せよ！」との決議がなされた。あまにも有名で多忙を極める人なので、恐る恐るお誘いした。

「案ずるより産むがやすし」で、快く参加を承諾してくれた上に、同世代の天文班OB2人も誘って参加してくれることになった。この結果、今回は総勢22人もの参加者が得られた。

予定した会場では狭くなってしまい、急ぎよ隣の「浜の母や銀座店」に会場を変更して8月29日に開催した。

最初、中島宏氏（化学班）に小講演「中国概観」を行なっていた。さすがに元共同通信社北京支局長である。建国60年の歴史と最近の諸問題の概観を分かりやすく説明された。

次に、初参加者7人を中心に自己紹介を行い、懇親会に移った。今回も、学位を有する者7人（5



分野）が参加していたので、高度で幅広い分野にわたる異業種交流ができ、年齢差46歳をものともせず、和気あいあい実に有意義で楽しい一夜であった。

参加者は恩師の清水周先生（47期）をはじめ、化学班の中島宏（51）大塚教夫（53）河原田和夫（55）児玉三明（56）宮原雄（57）高橋福幸（58）矢嶋瑞夫（58）萩原清人（59）古平明尚（82）清水文彰（82）、物理班の丸山肇一（51）中澤晃（56）濱村邦

夫（56）、天文班の吉澤壮夫（53）

成沢広行（64）滝沢裕雄（82）廉

澤誠司（93）関嶋梢（93）竹内雅

典（93）、生物班の堀内忠久（53）、

電気班の石井則男（64）の各氏。

電気班は今回が初参加で、残るは

写真班だけである。

今回は2011年8月末に開催

する予定です。案内状を送ります

ので、これらの班に多少でも加入

した人はご連絡ください。

yoshiyuki-taka@me.biglobe.ne.jp

電話 046-285-1086

幹事長 高橋福幸（58期）

中山道69次を歩く（4）

長久保宿から宮ノ越宿まで

中山道の旅は、10月で13回を数え、参加者も実人員14人、延べ84人になりました。だんだん、にぎやかに、楽しい歩き旅です。第10回は、御柱祭が終わって静かになった5月29日。長久保宿の落合橋でバスを降り、和田宿まで歩

きたどりつき、万治の石仏の周りを3回まわって一息入れた。下諏訪宿本陣は京風数寄屋造りの客殿と庭園が往時のままに維持され、公開されているのがすばらしい。そして、疲れたわれわれを秋宮の真新しい御柱が迎えてくれた。

和田宿は幕末の大火で焼失したが、和宮降嫁を受けて再建されたとのこと、本陣、旅籠屋など昔の宿場が今に残る。

第11回は、下諏訪から塩尻峠を越えて塩尻宿まで。塩尻峠の上の展望台からは、あいにく富士山は

旧旅籠屋だった本亭旅館に泊り、早朝、中山道一の難所といわれた和田峠に向かう。和田峠頂上への道は険しいけれど良く整備されていて、石畳みの道を歩き、永代人馬施行所、東餅屋で休み、標高1600mの頂上に着いた。

ところが、下諏訪宿までの下り道が悪路で大変だった。下社春宮



奈良井宿

見えなかったが、諏訪湖が眼下に広がり、雲の切れ間に八ヶ岳が見え、すばらしい景観だった。

第12回は、8月29日、セ氏34度の炎天下を、塩尻駅から桔梗が原のブドウ畑の中の道をたどり、洗馬宿へ。義仲の馬を洗ったという清水で手を洗い、のどを潤し、一路、中山道を歩き、本山宿に着く。本山はそば切り発祥の地とのこと。そばづくしの宿場御膳に大満足だった。

第13回は、10月16日、贄川駅から、木曾路北端の贄川宿へ。尾張藩の番所で、女改めと木曾木材の密移出を取締ったという贄川関所が復元されている。

漆器の里、平沢を通り奈良井宿へ。かつて、奈良井千軒、と呼ばれ栄えた街並みが今も残る。

弥次喜多も泊ったという旅籠「ゑちごや」に泊り、翌日、鳥居峠を熊よけ鈴を鳴らしながら難なく越えて数原宿へ。

数原宿では「お六櫛」の効能を聞かされ、買い求める。

次の宮ノ越宿入口までの道は、旧中山道が国道に吸収され、大型車がビュンビュン走るので最悪の歩き道だった。宮ノ越は木曾義仲挙兵の地。義仲館が建てられ、入口には義仲と巴の像が並んでいる。清水計枝（64期）

林美月さんが全国優勝

沖縄総体アーチエリー女子個人

3度目の全国総体。昨年は日本代表として世界も経験しており、

上位入賞は当たり前。そんなプレッシャーを感じながら、林は初めてコーチを伴わず、「美ら島沖縄総体」に臨みました。会場は宜野湾海浜公園多目的広場、ビーチがすぐそばにあり、湿気の多い海風が常に吹いている。観衆には心地よい風も、競技者には重たい、いやな風に思えたようです。

第1日目予選ラウンドは、試合前の練習時、激しいスコールで中断。亜熱帯気候を思い知らされ、重たい空気の中でのスタートとなりました。そんな中でも、林には「沖縄の風は読みやすかった」とのこと、最初から最後まで安定

した得点を重ね、3位で予選を通過しました。第2日目決勝トーナメントでは、勝たなければならぬというプレッシャーから、1回戦の相手は予選62位だったにもかかわらず、2点差の辛勝。2回戦も前半までは同点と厳しい戦いでしたが、後半相手のミスに救われ、3回戦からはプレッシャーが吹っ切れて、100点超えの点数を出すことができました。

準々決勝の相手は5月の選考会で敗れたアジア・グランプリ代表選手で、1回戦から安定して100点台を出していました。ここが勝負どころ、これを持ち切れば優勝できると励まし、なんとか4点差で

勝ち進みました。

準決勝はダークホースの予選50位の選手で圧勝。決勝はやはりアジア・グランプリ代表で、アーチエリー名門校の選手。応援団のパワーに圧倒されましたが、長野県アーチエリー選手団の即席ながらも心のこもった応援の後押しのおかげで、臆することなく戦い、優勝を勝ち取ることができました。

私は、顧問といつても健康面でのサポートのみで、技術指導はできません。相談するコーチもいません。

い中、自身の判断で風を読んで考え、最後まで1射1射集中して競技した林に、大きな成長を感じた沖縄総体でした。

アーチエリー同好会顧問
矢島淳子(75期)

▼林美月さんの話

3度目の高校総体で念願の優勝を果たすことができました。ここまで来ることができたのは、多くの方々の応援と支えがあったからこそだと思っています。本当にありがとうございました。

高校選抜オーケストラ祭に出演

着実に力つける室内楽班

室内楽班は弦楽器だけで活動している50人ほどの団体です。歴史も浅く班員のほとんどが初心者で、楽器や練習場所にも恵まれません。いろいろな方々のご支援に支えられ活動を続けています。厳しい環境下ですが、練習では知恵を絞って工夫を重ね、講習会や他校との合同練習などで確実に力を付けてきています。

昨年12月には日本青年館(東京)で行われた全国高等学校選抜オーケストラフェスタに長野県代表として参加し、全国から集まった高校生と交流しました。おかげさまで好評をいただき、県外から

見学者が訪れるほどになって、生徒ともども大きな自信になりました。また全国高等学校総合文化祭(8月宮崎)には、県選抜オーケストラ(8校60人)として出場しましたが、本校からは10人がメンバーに選ばれ、私も指揮者として参加しました。

写真は第13回定期演奏会(3月)の1コマです。吹奏楽班の力を借りてビゼーの交響曲第1番などを演奏しました。次の定期演奏会では、シューベルトの交響曲第8番「未完成」、シベリウスの交響詩「フィンランディア」、ヘンデルの合奏協奏曲第12番などを演



上田文化会館で開かれた第13回定期演奏会(3月28日)

上田高校 NOW



優勝を喜ぶ林美月さん(左)と矢島顧問

奏する予定です。まだまだ未熟ですが、生徒の頑張っている姿をご覧いただければ幸いです。室内楽班の他に、コンクールや演奏会で大活躍の吹奏楽班や、少人数ながら良い雰囲気地道に練習を重ねている混声合唱班もあります。それぞれ、持ち味を出しながら活発に活動が続いている音楽関係班ですが、両班ともども、ご支援のほどよろしく願いいたします。

音楽科教諭・室内楽班顧問

長谷川和生(64期)



念願の高校総体初出場

創部6年 女子ハンドボール班

女子ハンドボール班は、今年創部6年目で念願のインターハイ初出場を果たしました。

今年のインターハイは沖縄県で開催されました。8月の沖縄県だけでなく、少しランニン



グをしただけでも体中から汗が流れるほどでした。また、試合時間も今まで出場してきた大会より長く、体力的にかなりきつい試合になると予想されました。

上田高校は1回戦はシードされ、2回戦からのスタートとなり、対戦校は今大会でもベスト8まで進出した強豪校・埼玉栄高校でした。同校とは遠征で練習試合をしたこともあり、相手の強さも十分わかっていましたが、ひるむことなく試合開始から果敢に攻め続けました。先取点を奪ったことで試合の流れをつかみ、序盤は上田優勢の試合展開でした。その後もディフェンスで相手を苦しめ続けましたが、逆転されてからは連続で点数を取られてしまい、その点差を詰めることはできませんでした。結果は残念ながら負けしてしまいましたが、試合をしている先輩方や先生はもちろん、ベンチや遠い沖縄まで応援に来てくださった保護者の方々も一丸となってハンドボールを楽しんでいました。3年生の先輩方は、ハンドボールに注ぐ3年間の思いをこの試合で

すべて出し切ったように見えませんでした。班員が少ないので、1人1人の負担が大きくて、けがする人も多く苦労した時期もありました。が、先輩方は練習でも試合でも真剣にハンドボールに取り組んでいました。またプレーに関して気になった点を全員で話し合える良い環境を作っていました。

私たち1、2年生は先輩方の努

剣道班は23年ぶりの出場

個人戦 16強にあと一歩

高校総体予選の決勝は長野商業との対戦となった。先鋒戦を延長で制しながら、中堅戦を終わった



力や苦労を見してきましたが、インターハイでの上田の試合や数々のレベルが高い試合を見て「私たちが来年出場したい!」と強く思いました。現在は、来年行われる岩手インターハイに向けて男女一丸となって日々練習しています。これからも応援よろしくお願ひします。

女子キャプテン 原田紗也子

時点で逆転を許していた。副将が面を奪い、勝者数は追いついたが、取得本数で1本差。勝たなければ再逆転できない状況の中で、大将は攻め続け、「出端小手」を決める。試合終了の笛が鳴り、実に23年ぶりのインターハイ出場が決まった。勝者3人はいずれも3年生。最後の「全国への挑戦」であった。県大会後に行われた北信越大会でも3位に入賞し、心技とも充実した状態で沖縄へと向かった。高体連指定により、8月1日から7日までの滞在となった。

8月3日開会式。華やかな中にも静かに漂う闘志がひしひしと伝わってくる。その空気に押しつぶされそうにもなった。

翌日は個人戦。県予選で2位になった3年で班長の下形が出場した。1、2回戦を勝ち上がり、あと1つ勝てば長野県の男子個人の記録(本校OBが持つ16強)に並ぶというところまで行ったものの延長の未惜敗。快挙はならなかった。が、上田高校としてまずは全国大会での勝利を収めた。

8月5日団体戦。前日に行われた女子団体戦では長野県代表が敗退。長野県の期待もかかる試合となった。しかし、全国の壁は想像以上に厚い。全国区の強豪校、兵庫育英高校には完敗した。その後、育英はリーグ戦で2連勝し、この時点で本校の決勝トーナメント進出はなくなった。

福島県湯本高校戦。3年生にとっては現役最後の公式戦。本当はこれでこの子たちと一緒に戦うことはなくなる。込み上げてくるものがあつた。が、生徒の集中力はけた外れだった。副将戦で決着をつけ、リーグ敗退ながらも全国で勝つという最高の幕引きを成し遂げた。間違いなく沖縄の記憶は永遠となる。

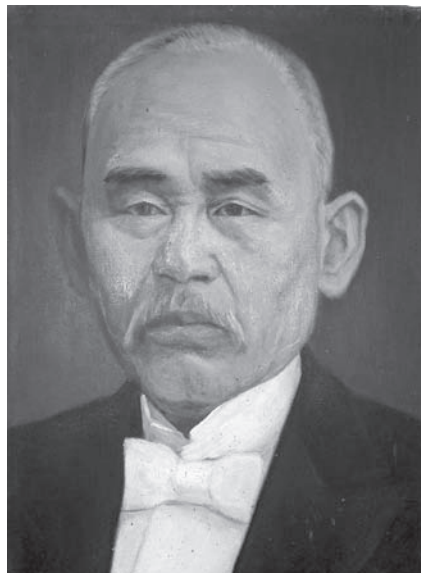
最後になりましたが、関東同窓会の諸先輩には物心両面でのご援助をいただき衷心より御礼申し上げます。

剣道班顧問 神津純(77期)



母校に戻ってきた肖像画

初代学校長 宮本右次先生



せんでした。額の裏には宮本先生の直筆と思われませんが、肖像画を贈られた経緯に関する簡単な記載がありました。

さて、「長野県上田高等学校

上田高校 NOW

昨年10月初旬、同窓の方よりお電話をいただきました。「上田高校初代学校長の宮本右次先生のご生家を取り壊されるにあたり、残されていた肖像画を預かっています。宮本先生のものと思われまので学校で保管していただけないでしょうか」との内容でした。数週間後、お宅を訪れ肖像画をお預かりしてまいりました。額は古く壊れそうな状態でしたが、肖像画は大変立派なものでした。帰校して、同窓会館の資料室に保管してある宮本先生のお写真と照合したところ、間違いありません。



5月27日に、台湾国立苗栗高級中学校の生徒26人と職員2人が本校を訪れ、交流会を行いました。今回の交流会には、受け入れの経緯に興味深いエピソードがありました。

生が長野県の出身と聞いている。是非先生の卒業した高校を訪問し交流を深めたいので、先生の母校を捜して欲しい。協議会が日本にある「台湾の文化代表処」や県内の高校に問い合わせた結果、本校の卒業生であることが判明し、今回の訪問が実現しました。ご家族によると、金井先生は上田中学を明治43年に卒業された後、台湾で教職に就かれ、最後は「苗栗高級中学」の前身「苗栗家政女学校」の初代学校長を昭和16年から21年まで務め、退職されたとのことでした。

全日制教頭 本郷幸博

台湾の苗栗高校生が来訪

初代校長は金井勝先生（9期）

9年前、宮本校長の薫陶を受けた者たちが、その徳を慕い贈った肖像画が再び母校に戻ってくる。この出来事に、私は同じ教育に携わるものとして、ある種の感慨を禁じ得ませんでした。現在、肖像画は学校で保管していますが、いずれは生徒の目に触れる場所に飾りたいと考えております。

全日制教頭 本郷幸博

ソフトウェアの システム技研株式会社

代表取締役 清水 通男 (66期)

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 1-34-1 サンフジビル 5F
TEL (03)5272-8830 FAX (03)5272-8836
URL <http://www.s-giken.com>

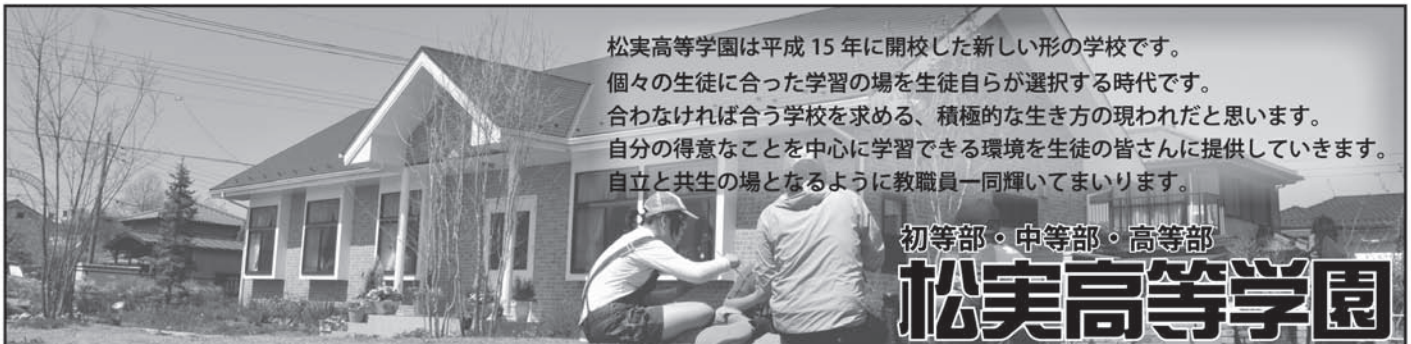


Imaginations are free and fun,
and excitements more wonderful and much greater.

“発想は自由に楽しく、そして感動は素敵に、より大きく”

- Mr.Children
- ゆず
- BUMP OF CHICKEN
- ケツメイシ
- JAY'ED
- 湘南乃風

株式会社 トイズファクトリー
名誉会長 井出 孝光 (61期)



松実高等学園は平成 15 年に開校した新しい形の学校です。
個々の生徒に合った学習の場を生徒自らが選択する時代です。
合わなければ合う学校を求める、積極的な生き方の現われだと思います。
自分の得意なことを中心に学習できる環境を生徒の皆さんに提供していきます。
自立と共生の場となるように教職員一同輝いてまいります。

初等部・中等部・高等部

松実高等学園

学園長 松井石根 (60期) 〒344-0067 埼玉県春日部市中央 1-55-15 <http://www.matsumi-gakuen.net>

Outsourcingの知識集団

保険会社の内部監査請負・FC組織のFranchiseeの内部監査・医療法人のConsultation

株式会社 fellow 取締役社長 古畑 克巳 (69期)

〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-19-4 K S 司町ビル3F TEL 03-5283-7225
<http://www16.ocn.ne.jp/~fellow/index.html> FAX 03-5283-7226

アクト法律事務所

〒107-0052
東京都港区赤坂3丁目9番18号
ラウンドクロス赤坂見附3階
TEL: 03-5570-5671 (代表)
FAX: 03-5570-5674

【最寄りの交通機関】

地下鉄銀座線・丸ノ内線 赤坂見附駅下車徒歩1分

弁護士(所長) 岩井 重一 (62期)
弁護士 安田 隆彦
弁護士 平澤 慎一
弁護士 寺島 英輔
弁護士 黒澤 真志

KC **第一会計コンサルタント**
Daiichi Kaikei Consultant

お客様の立場で企業経営をトータルにバックアップします

〒171-0014 東京都豊島区池袋2-46-3 CIMA100ビル5F
TEL 03-5992-4981(代表) FAX 03-5992-5090
URL <http://www.dkc-g.co.jp> E-mail kubo@dkc-g.co.jp

代表取締役
久保 柳哉 (60期)

エッセー

芳泉寺

濱村 邦夫 (56期)

旧上田市の市街は短銃(ピストル)の形に似ていた。銃口は西の方、塩尻、坂城、長野方面に向けられている。北国街道である。北国街道からタバコ屋さんの角で直角に曲がって南に向かうのが北向観音道。昔は古舟橋で千曲川を渡ったというが、この橋は長い間、なくなっていた。

坂上から段丘を下ると坂下。坂の横段丘の上にあるのが、芳泉寺。上田城主、真田、仙石、松平の菩提寺であったという。信之の正室、小松姫の墓があるが、本体は松代に移されたはずだから、現在残っているのは、抜け殻ということになる。仙石家の藩主の墓が二つ。松平の墓のこ

とは聞かない。

芳泉寺の境内で草野球をして遊んだ。道祖神の石碑や天神さまの小さな祠があった。現住職の柳楽真純(なごり)さんが境内の大改造をやって、豪華絢爛(?)たる野外博物館にしたので、もう草野球をやる余地はない。道祖神や天神さまも整理の対象となり、消えたかと思ったが、境内のどこかに移されてひっそりたらずんでいるらしい。

柳楽さんは庭を八つのテーマに分けている。八正道から八を採ったものらしい。ビルマ戦線にいたことがあるとかで、戦没者を慰める一画があるのは特徴といえべきだろうか。

坂(保福寺坂)の芳泉寺側石垣にツメレンゲが生えている。これは乾燥地の植物だ。上田は年間雨量が800mm程度で、瀬戸内海とならぶ少雨地方であり、それが養蚕、蚕種製造に有利であったという。中国の西安に行った時、ツメレンゲを見かけた。農家の門の瓦の上、清代の食料倉庫の屋上、それに大雁塔の屋根の上などである。

関東付近の浄土宗の寺を見ると、徳本上人の南無阿弥陀仏や吞龍上人の幼児教育の伝統を継ぐ寺経営の幼稚園、保育園が目立つ。

芳泉寺にも吞龍さんのお堂があったが、

整理された。幼稚園(歓喜園)が広げられた。私は4、5歳のころ、「幼稚園に行くかい」と母に聞かれて「行かない」と断った。すぐ上の兄の様子を見て、お遊戯で遊んでばかりいて、何の役に立つのかと思ったからである。おかげで、社交性に少し欠ける性格が形成された。

散歩で寺を訪ねると、管理の厳しい寺とゆるい寺の差が大きいことに気づく。四谷近くの寺に行った時のこと、門に赤外線センサーが仕掛けられていて、中から大黒さん(住職の奥さん)が飛び出してきた。「何かご用ですか」「少し見せてもらいたいと思います」「寺は見るところではありません」なるほど、一理も二理もある言い分である。さすがご引き返したが、反発も感じた。寺は名義上、住職の所有になっているかもしれないが、多数の人の寄付の上にある公共財ではないだろうか。少しくらい見せても減るものでもない。もともと寺は言うだろう、不心得者がいて、器物破損で迷惑するのだと。でも寛大、寛容を説く宗教が狭量に陥るのは感心しない。そう言えば、神社はさほど進入制限をしていない。神主さんも常駐するわけではないし、所有権が個人名義になっていないのだろうか。

芳泉寺のおつしやんももう高齢だ。跡継ぎに譲らねばならないが、探すのに苦労しているらしい。

訃報

心よりお悔やみ申し上げます。

- 30期 若林健夫 2006年11月12日
- 31期 山口宗吉 2008年7月27日
- 33期 竹内 重 2010年10月28日
- 35期 神津勝時 2005年2月26日
- 35期 関 輝雄 2009年12月
- 40期 今井甲子雄 2010年2月26日
- 40期 小出 等 2009年2月3日
- 41期 母袋信吾 2008年5月
- 41期 山崎千里 2007年10月5日

- 42期 山邊賢四郎 2007年12月29日
- 44-5期 生駒 進 2010年2月23日
- 44-5期 中島和夫 2009年12月24日
- 47期 宮原俊雄 2010年5月7日
- 53期 尾澤正毅 2010年3月17日
- 56期 山浦敏照 2009年6月18日
- 57期 坂口武久 2010年3月26日
- 57期 松田光一 2010年1月9日
- 59期 小山一夫 2007年

- 59期 橋詰五十夫 2010年4月10日
- 60期 坂口悠喬 2008年11月10日
- 62期 倉島真彦 2008年
- 63期 掛川安道 2010年4月11日
- 63期 堀部 晟 2008年6月29日
- 64期 土屋治男 2006年12月25日
- 66期 磯川周治 2010年9月
- 70期 川端清邦 2009年7月
- 103期 塩澤陽香 2010年4月6日



会員短信

第49回総会への
出欠はがきより

36期 小川太郎

毎月25日、上田で36会有志の夕食会を開いています。年齢90歳をすぎ、6、7人の会合です。

40期 児玉安彦

前便で40期生が偶数月14日に集まっている場所は渋谷文化会館9階と書きましたが、渋谷駅西側の「渋谷東急プラザ」9階の「いらか」の誤りでした。

44・5期 星野賢造

テニス三昧。2009年度の80歳以上関東オープンダブルスで優勝。全日本3位。

51期 中島 宏

上海万博を見るツアーに参加しました。上海のすさまじい発展の勢いを感じる一方、他地域との格差拡大についても考えさせられました。

51期 浅野井 哲

16年間の日本万歩クラブのボランティアリーダー活動を3月末で卒業しました。

51期 黒川嘉郎

5月の全日本マスターズボートで3種目に出漕。幸い、1種目で優勝、他は苦戦の末2着。

53期 塚田 靖

窪田君の大先輩です(打楽器)。現在でも若者とアンサンブル活動をし、最近CDも作りました。

53期 柳澤浩一

5月24日、53期8組の同級会を千葉は勝浦で開きました。旧友40人中16人が参加。長い交わりにしたいものです。

54期 倉島 彰

西東京市の社会人男声合唱団の責任者をしています。40人の団員の中、4人が上田高校OBです

54期 藤村延魚

上田観光コンベンション協会の顧問を拜命致しております。上田の観光プロモーションのために「真田幸村男の美学」と言う歌を作詞・作曲しました。

55期 宮島光男

55期の仲間は毎月第3水曜夜、新宿駅東口中央口から徒歩5分の居酒屋「千草」で「三水会」をしています。「東京上田会」はふるさとの発展を願い、市民との交流や観光施策の提言、イベントの参加などさまざまな活動をしています。まずは「真田幸村」のNHK大河ドラマ放映実現へ署名運動を。連絡先: e-mail nedakaka@titan.ocn.ne.jp URL「東京上田会」で検索を。

60期 黒澤博身

東京駅に隣接するサピアタワーF(八重洲口)のクリニック「榎原サピアタワークリニック」で診察しています。

60期 今井勇雄

5月16日に戸倉上山田温泉ホテル清風園で開催された60期同期会「青春回帰の会」に出席し、90人近い諸兄と旧交を温めてまいました。

62期 諸岡健児

62期は地元上田にてゴルフ会のと「前期高齢者就任祝賀会」を開催。約40人が出席し、盛会でした。

63期 山浦善樹

法科大学院教授(筑波大学)を定年退職しました。司法試験委員、司法研修所教官、民事訴訟法学会理事など法曹養成教育もこれと区切りです。

65期 滝川幸子

定年退職後、図書館嘱託職員として、新設の「子ども読書推進センター」に勤務しております。

69期 関 和義

4月から東京女子大学の事務局に勤めています。

71期 高木 繁

勤務していた経済産業省から官民人材交流プログラムでブラザー工業(株)に出向しました。もう霞が関に戻ることはないと思うと感無量です。

73期 宮澤 誠

桐生市で整形外科診療所を開業し、10年になりました。

80期 小宮千佳子

娘が高校生になり、自分の高校生時代をなつかしく思い出しています。でも新入生の女子が男子より多い!なんてビックリすると共に、ちよっぴり残念に思いました。

96期 林 啓太

中日新聞・東京新聞の富士通信部で記者をしています。

103期 田中真理子

4月から上田郵便局勤務となりました。大好きな上田で働けてうれしく思っています。

寄付者 / 寄付グループ

(2010年4月1日～9月30日)

期	会員氏名	寄付額	期	会員氏名	寄付額	期	会員氏名	寄付額	期	会員氏名	寄付額
38	峯村秀男	10,000	60	白井 透	23,000	63	松山 久	2,000	72	長坂武見	4,000
44-4	滝沢源平	2,000	60	鷹野芳機	8,000	63	若林英也	1,000	72	渡邊温子	8,000
47	上原 亨	6,000	60	竹倉征詞	2,000	63	渡辺節男	1,000	78	諸山 司	2,000
47	三浦嘉治	3,000	60	羽毛田 信	1,000	64	清水淳郎	2,000	78	吉岡雅子	2,000
48	土屋侃司	2,000	60	日置勇二	50,000	64	藤巻禮子	5,000	78	渡邊 博	4,000
49	荻原 賢	18,000	60	久田英保	1,000	65	上原 昇	17,000	79	荻原 貴	2,000
49	小澤泰衛	2,000	61	笠井徳爾	8,000	65	小島幸一	2,000	81	小池 徹	2,000
49	風間 充	1,000	61	滝澤 進	1,000	65	小宮山 豊	2,000	83	榎本かおる	1,000
50	石井敬二	1,000	61	西澤正捷	2,000	65	小山雅堂	2,000	83	竹内延彦	2,000
50	井出藤壽	4,000	62	浅井保雄	2,000	65	丸山暢久	1,000	84	宮澤泰正	31,000
50	山辺文雄	1,000	62	栗山正雄	9,000	66	小林周一	1,000	90	山本 哲	1,000
50	吉村洋一	10,000	62	高梨泰男	2,000	66	清水通男	4,000	99	矢島好太郎	1,000
54	土屋勝俊	1,000	62	中山君平	1,000	67	堤 達	2,000	102	小林栄一	1,000
55	緑川 浩	26,000	62	松井由美	2,000	68	碓田 茂	8,000	102	富岡航一郎	1,000
56	鷹野致和	1,000	62	真山隆夫	3,000	68	尾台孝男	2,000	108	大澤慎太郎	2,000
56	成田邦夫	4,000	62	諸岡健児	2,000	68	小林 誠	4,000	108	櫻井義彦	1,000
58	寺島知恵子	4,000	63	上条和祥	2,000	68	土屋耕太郎	4,000			
58	寺島紘士	4,000	63	川村恭司	2,000	68	丸山洋一	2,000			
58	山邊光一	1,000	63	小林諒一	4,000	69	池田有美子	1,000			
59	清水侯博	1,000	63	関田正幸	2,000	69	倉沢 裕	1,000			
60	大橋邦夫	4,000	63	田中 稔	4,000	71	杉崎経雄	30,000			
60	沓掛行徳	2,000	63	藤川 昇	2,000	72	青沼 泉	2,000			
60	児玉八十三	15,500	63	保野野美智子	4,000	72	関 雄二	2,000			

運営基金拠出者

期	氏名	金額
59	大日方勝利	10,000
60	山岸文明	10,000
63	塩沢清文	10,000
63	田中 正	10,000
63	西沢文昭	10,000
63	若林英也	10,000
72	渡邊温子	10,000
108	大澤慎太郎	10,000
	総会実行委員有志	857
	幹事会有志	1,847
	幹部有志	1,878
	合計	428,082



「はやぶさ」のイオンエンジンを開発

堀内康男氏(81期)



2010年6月13日。小惑星探査機「はやぶさ」が7年間にわたる宇宙の旅を終えて地球に帰還したニュースは、不況下で憂鬱ゆううつになっていた日本人に大きな感動を与えた。

地球と小惑星「イトカワ」を往復した距離は約60億キロ。多くのトラブルに見舞われ、一時は通信が途絶えた「はやぶさ」の帰還は、まさに奇跡としか言いようがない。探査機が惑星に着陸して地球に戻って来たのは、世界初の快挙だ。

「はやぶさ」の成功に大きく貢献したのが「イオンエンジン」。堀内康男さん(46)は、その開発に最初から携わってきた。開発チームを率いたJAXA宇宙科学研究所の國中均教授は、東大大学院時代の4年先輩で、ずっと仕事を共にしてきた。長期間の宇宙航海には、燃費の良いエンジンが不可欠。何度も改良を加え、完成までに15年もかかった。

だから、満身創痕まんしんそういの「はやぶさ」が帰還した時は、さぞ感激したに違いない。そう思って当時の心境を尋ねると、意外な答えが返ってきた。

「最後のイオンエンジン噴射が終わった時は、寂しかったですね。それまで、トラブルで何度も呼び出され、苦労してきたが、もうそれがなくなると思うと、急に寂しくなりました」

高校時代は、宇宙に特別な関心はなかった。英語班に所属し、松尾祭で上演したシェイクスピアの英語劇では、ハムレットの親友ホレイシヨを演じた。こ

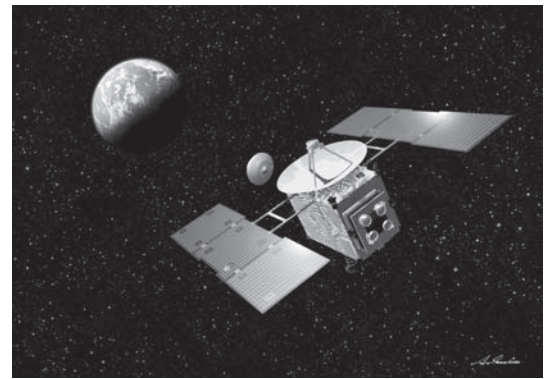
のとき英語班で一緒だったのが、今の奥さんの和子さん(旧姓荻原)。卒業後、京大工学部を経て東大大学院航空工学科に進んだ理由の1つは「彼女が東京にいたから(笑)」だという。

大学院時代と就職先のNECでは、マイクロ波放電式のイオンエンジンの開発に熱中。イオンエンジンとは、簡単にいうと、放電容

器にキセノンガスを入れてプラズマ化(イオン化)し、電圧をかけてイオンを引きつけ噴射する装置。

「試作と実験を何度も繰り返しました。一番難しかったのはイオン生成の効率をよくすること。最終的には、強力な磁場を作り、磁場とマイクロ波との『共鳴現象』を使ってプラズマを作ることに成功しました」

ところが、帰還まであと7カ月に迫った時、「はやぶさ」の4つのエンジンはすべて停止してしまっただ。 「絶体絶命。もはやこれまでか」と思われた時、運用チームがひねり出した最後の一手は「クロス運転」だった。停止したエンジン同士をつなげて1つのエンジンとして稼働させるという想定外の方法。そして、それは見事に成功し、「はやぶさ」は積算作動時間4万時間の世界記録を達成した。



地球に向かう「はやぶさ」(池下章裕氏提供)

実は堀内さんは「はやぶさ」打ち上げの前に、AからDまでの4つのエンジンにこっそりと夫妻と2人の子どもの名前を付けていた。最後にA(本人)とB(妻)のクロス運転で夫婦が1つになったことになる。

現在はNECの宇宙事業開発戦略室シニアマネージャーとして、イオンエンジンを海外に売り込む仕事などを担当。日本の技術には米航空宇宙局(NASA)も興味を持っているという。「このビジネスの最大の目的は、技術を国内に残すこと。日本だけだと、『はやぶさ』のようなミッションは15年に1回ぐらい。イオンエンジンは作り続けないと人も技術も維持できない。その隙間を外国のミッションで埋めようという発想です」。「はやぶさ」のミッションが終わっても、イオンエンジンとの縁は当分、切れそうにない。

同窓会報全号そろそろ CD化を検討中

関東同窓会報「うえだ」の全号が、やっとそろいました。相談役の柳澤廣氏(44-5期)が欠番となっていた3、5、7号を提供してくれました。

同窓会報が創刊されたのは1969年。当時の島田次郎副支部長(21期)は発刊の辞で「会員の待望久しかった会報『うえだ』が、ここに発刊を見るに到ったことは、まことに御同

慶の至りと存じます」と述べている。それから40年余、会報は回を重ね、今号で81号に至りました。

全号がそろったのを機に、これまでの会報を全て納めたCDの制作を検討しています。主要記事のインデックス、会の歴史など付加情報も加え、50回目を迎える本年7月の総会を記念するCDにしたいと考えています。